



RI 第 2 6 1 0 地区

東となみロータリークラブ会報

2014-2015 年度 No.12

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334、

inashorc@athena.ocn.ne.jp

2014-2015 年度 会長 坂井彦就、幹事 岩崎 修

2014-2015 年度 RI テーマ



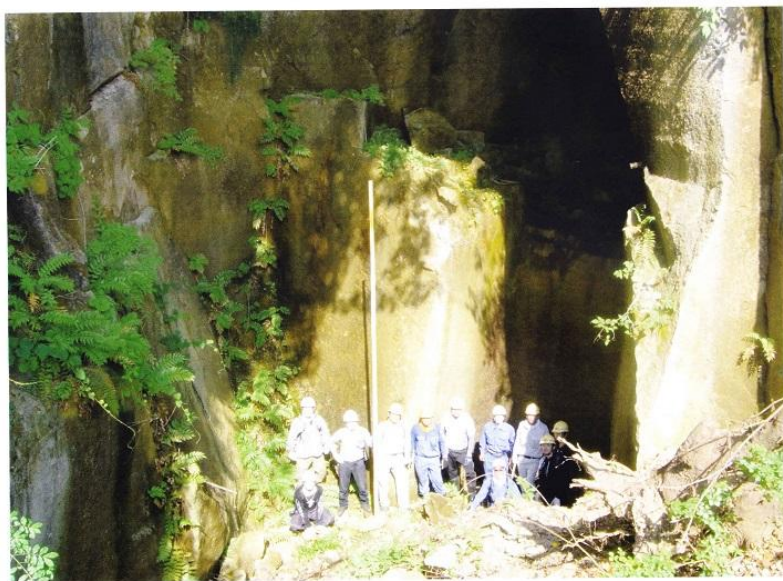
Light Up Rotary

「ロータリーに輝きを」

(ゲイリーC.K.ホアン会長)

例 会 記 録

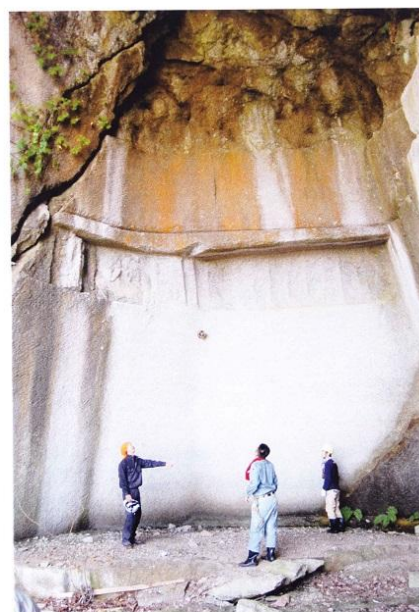
向かって左の石切り場



撮影日2013 6/10

高さ15m 幅16.2m 奥行き10m

向かって右の石切り場



撮影日2012 9/5

高さ10m 幅9.6m 奥行き10.5m

「金屋石」石切り場を調査・・・宮窪大作氏資料より

第 1 7 3 8 回例会

平成 2 6 年 9 月 1 7 日(水) PM 0 : 30 よいとこ井波

1. 点 鐘 坂井彦就会長
2. ソング：四つのテスト
3. ゲスト：宮窪大作氏(宮窪建設㈱代表取締役)
4. ニコニコ BOX 紹介(後述)
5. ゲスト卓話「金屋石」：宮窪大作氏(紹介者：坂井会

長)・・・講師の都合で卓話を先に実施〈内容は後述〉

6. 会長の時間：今回は省略。
7. 幹事報告(会長代理)：①10/5、地区大会は乗り合わせで行きましょう。②ハイライトよねやま：各テーブルに配布済み。③例会の変更については、事務局に確認の事。
8. 出席報告(齋藤委員長)：会員数 18 名本日 12 名出席、

66.67%。

9. 委員会報告(会長代理)：①例会場のロータリーの看板については、「よいとこ井波」の設置 OK ができました。
入口の左側の柱に、木彫で、横山豊介先生にお願いし、掲げたいと思います。

10. ニコニコBOX(SAA：本日6名)

坂井会長：宮窪さん、ようこそお越しいただきました。
有難うございます。金屋石の卓話、楽しみにしております。

齋藤会員：宮窪さん、ようこそ！先日は有難うございました。我々に活が入るような卓話を期待しています。

三谷会員：都合により、早退しますので宜しくお願いします。

中島会員：宮窪様ようこそいらっしゃいました。所用にため、早退します。

山本英介会員：宮窪さん、今日はようこそ。今日を契機に、御入会をお待ちしております。

山本武夫会員：宮窪さん、ようこそいらっしゃいました。後程卓話宜しくお願いします。今日は末娘の二十歳の誕生日！ようやく子供たちが皆成人し、ほっとしています。高瀬神社奉納剣道大会が無事終了しました。齋藤副会長、岩崎幹事、大変忙しい所を出席有難うございました。



本日の花：①白萩 ②ガマズミ 〈河合会員提供〉



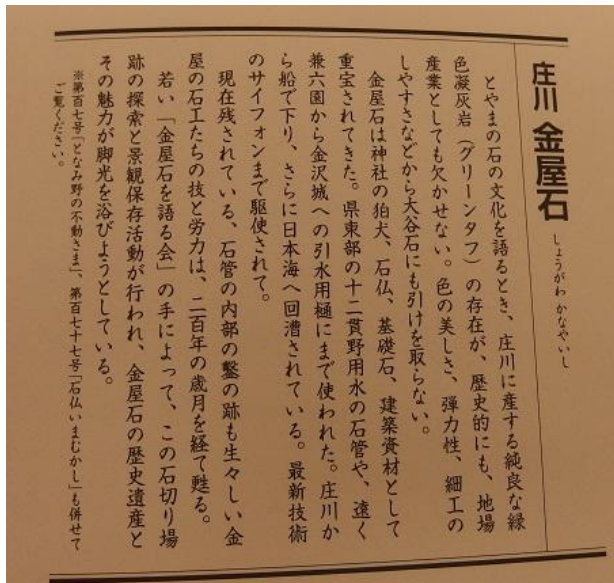
卓話「金屋石」

宮窪大作氏(宮窪建設代表取締役)

宮窪氏：私は、もうすぐ40歳になります。この金屋石に興味を持ったのは、ほんの2年前の事です。幼少期には聞いていましたし、小さい頃、川べりで対岸に洞穴があるのは見ていました。丁度2年前、庄川商工観光協会の会合で、庄川町の宝を出し合う中で、「金屋石」の話題が出ました。子供たちに聞いても、今は学校で教育を受けていないせいか、全く知りませんでした。一度調べようということになりました。探検隊を結成し、調べようということにし、船を出してもらい、対岸に渡り、事前に調査をしましたが、洞窟は草で覆われており、川べりから、穴までたどり着こうにも、下から這い上がろうとしても、樹木に遮られて穴が見えない状態でした。苦労を重ね、去年の探検には、草木を伐採してようやく、4か所の洞穴〈採掘現場〉を発見しました。ウッドプラザから、対岸に見えるのは2か所あります。



「万華鏡」に「金屋石」掲載



その後、「金屋石を語る会」を発足し、いろいろ調査をしました。金屋石は、緑色凝灰岩で、大谷石（主産地は、宇都宮市大谷町付近に産する。御隣の石川県小松市にも産する）に近い石で、細工はしやすいが大谷石より硬く、福井の笏谷石（しゃくだにいし）は青いが金屋石は緑色。かつては、採掘量の多く名前の通った笏谷石として、金屋石を売り出した経緯もあるようです。



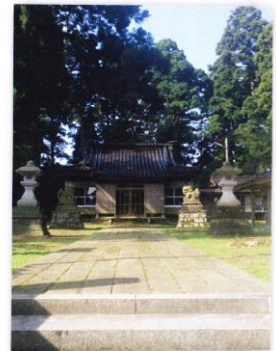
実際に、金屋石が使われた所は、金沢の犀川上流から兼六園に水道管として、穴をあけてつながれ、兼六園から、金沢城まで敷設されて水を送った記録があります。これは水記念公園内に石管が展示されています。また、県内の16の文化財のうち、4つで金屋石が使われています。瑞泉寺は、基礎石、万福寺・安居寺・浅地神明宮では参道に使われています。この参道は、もともと基礎石に使ったものを転用されたものでしょう。また、井波八幡宮の狛犬も金屋石でできています。



安居寺観音堂



浅地神明社



金屋石を金沢まで運ぶには、庄川から船に載せて、富山湾に出て、能登半島をぐるりと回って、犀川に入り上流へ向かったものです。

この採石には、切る人足、運び人足、加工する人足、売人足、多くの人々が関わっていたのですが、大変な苦労があったらしく、経験のある人は一様に口を閉ざして語られなく、ようやく聞きだした話も想像を絶する内容もありました。しかし、庄川にも、金屋石の採掘が終わっても、その職業に関連した仕事を続けておられる人が残っております。

私達「金屋石を語る会」は、これらの苦労した人々に光を当てるべく、尽力しています。この庄川の伝統の仕事や地域に光を当てれば、それは後世の子供たちにも、伝承されて、地域のためになると考えたからです。今年も第3回の探検隊を出し、10月には、注連縄を制作し、11月にとりつける予定にしています。

これからの活動としては、石切り場を継続的に樹木の伐採管理をし、更なる調査研究をしたいと考えています。また、いろいろな関連団体と連携を図り、金屋石のPRをしたいと思います。また、「県の石」3種（岩石・鉱物・化石）のうちの岩石に指定を受けるべく、努力をしています。

〈回覧資料：富山写真語「万華鏡」〉

